

2009年9月14日

【試験報告書】

株式会社 渡辺オイスター研究所 御中

株式会社 天然素材探索研究所
〒151-0053
東京都渋谷区代々木2丁目27番13号
オカダマンション2-D
TEL 03-5302-4721 FAX 03-5302-4722

ご依頼いただきました試験 (No.0905-019) につきまして、下記の通りご報告申し上げます。

試験名：ワタナベ活性型オイスター投与による生殖・発生安全性試験
～出生前および出生後の発生ならびに母動物の機能に関する検討～

試験目的：6週齢の雌ラットを用いて、ワタナベ活性型オイスター(以下、オイスター)を連続28日間投与したのち、雄ラットと交配させる。妊娠を確認した雌ラットを選択し、出産までの約21日間において、さらにオイスターを連続投与することによる母胎ならびに仔への影響について検討する。

供試動物：ラット SD 6週齢 雌雄

試験群：2群 Normal群(♀) 6匹
オイスター群(♀) 20匹

測定項目：①一般状態観察
②体重、摂餌量、摂水量測定
③繁殖試験
④新生仔の発育成績
④解剖(剖検)
⑤血液生化学検査
⑥病理組織学的観察

結果および考察： 体重、摂餌量、摂水量の3項目において、試験開始より交配前投与期間では、2群間に有意差は認められなかった。妊娠期間を含めた交配後投与期間では、妊娠7日目以降より各項目について増加傾向を示したが、妊娠個体の胎児の発育期間であることから、オイスター投与による影響ではないと考えられる。また、分娩後の摂餌量ならびに摂水量の増加は、授乳のための母胎の栄養補給による現象と考えられる。

繁殖成績については、オイスター群で良好な結果が得られ、また、新生仔の発育成績についても同様の結果を示した。この現象は、各母動物ならびに新生仔の状態観察、剖検、臓器重量、生化学検査、病理組織学的観察結果において有意差が認められなかったことから、毒性を示す結果ではないと考えられる。

以上の結果から、ワタナベ活性型オイスター投与に起因する母胎ならびに仔への影響は認められないと考えられる。